平成18年１月 15 日　　第18号

建設防災
ボランティアニュース
第 18号

平成18年の新年によせて

会員の方々には、晴れやかな新年を迎えられたことと存じます。

昨年は、痛ましい幼児を対象とした事件の続発や、技術者として屈辱を覚える偽装事件など、憂鬱な年末でした。今年こそ平穏を願ってやみません。

さて、当協会では昨年から新たな活動も始まりました。まず、「かちどき橋」の開閉装置を見学する市民を、当協会の会員が説明と安全誘導を行うもので、多数の協力会員が5月から毎週順次に活動を行って頂きました。年末までに32回の活動で、500名を超える見学者対応が行われました。

見学者へのアンケートでは、“懇切丁寧な案内と、安全への気遣いに感謝します”との感想が大変多く見られました。

さらに、帰島が叶った三宅島の復旧に向け、傾斜地への植栽活動に代表者数名の参加も行われました。

その他、既に恒例化した各種の主催行事や、支援を頂いている建設局、道路整備保全公社、並びに公園協会での催事支援も活発に行われました。

それぞれに、猛暑の中、或いは風雨のなかでの活動もあり、会員の皆様には本当に感謝申し上げます。これら、1年を通じての諸活動に事故もなく、会員のご留意に敬意を表したいと思います。

各方面で活発になっているいわゆるボランティア活動も、広く社会に定着した感がありますが、当協会も単に有事対応への備えだけでなく、蓄積した建設行政の経験を活かし、また一市民としての視点を加え、日頃の行政支援も可能な限り協力を行っていきたいと思います。ひいてはそれが有事の際に、行政と連携した効率的な災害対応にも活かされるものと思います。

会員の方々におかれましては、日常の職務を割いての協力者や、既に第二の職場も離れられても協力頂いている方など、多様な要件を克服しての活動ですが、どうか本年も皆様のご理解とご協力を賜り、有意義なボランティア活動となるよう、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、会員並びにご家族におかれましては、本年がご健勝・ご多幸の年となりますよう祈念申し上げます。

平成18年　正月
東京都建設防災ボランティア協会
会長　沼尻　孰

救命技能認定講習会開催

参加報告-1

日本における心疾患の死亡は年々増加傾向にあり、今後も高齢化社会の進展により心筋梗塞等の心疾患が増加するものと思われている。このようなことから多くの人々を救うためには、救命技能が必要不可欠とな

っていると聞いた。

そこで、平成 17 年 11 月 7 日(月)新宿消防署において、11 名が参加して 3 時間にわたる講習会が行われた。この講習会は、救命実技を中心に二人の署員講師から指導を受け、厳しい中にも楽しく受講することができた。受講後は、少しだが正義感が湧いて来た。

(受講中の参加ボランテイア)

すでに本講習を受講された方も多いと思いますが、ここでは未受講の方々の参考になればと、以下に講習状況を再現してみた。

1. 心臓マッサージ

① 傷病者に近づきながら、出血の有無など周囲を観察

② 耳元で「わかりますか」と意識の確認

③ 意識が無い場合には、119 番通報と AED{自動体外式除細動器(電気ショック)}の搬送を周りの人に依頼

④ 意識が無い場合、手を額に当てあごを引き上げて、気道確保と呼吸を確認

⑤ 呼吸が感じられなければ、気道を確保し傷病者の口を自分の口で覆い、また鼻を摘んでゆっくり息を吹き込む(この人工呼吸を 2 回行う)

⑥ 循環のサイン(呼吸・咳・体の動き)を確認

⑦ サインが無ければ、1 分間に 12 回の割合で 15 回の心臓マッサージ(両手で圧迫する位置は胸骨の下半分の所)と人工呼吸 2 回を行う。

2. AED(鞄より小さく軽い物)の装着

① 電源を入れる

② 2 枚の電極パッドを傷病者の心臓を挟み胸に貼る

③ 心電図を解析する(循環サイン無し)

④ 除細動(電気ショック)を行う。

という動作について、それぞれ二人が組になって実技を行った。

3. 異物除去法

① セキを出させる

② 気道確保(あごを上げる)

③左右の肩甲骨の間を 4～5 回、手の平の甲で強く叩く(掃除機の使用を聞くが、不潔でしかもノドを傷つけるので止める)という講義を聞いた。

4. 止血法(直接、間接、圧迫)

血液の量は、体重の 13 分の1から 14 分の1(7から8%)と言われている。(体重 60Kgの成人の場合、総血液量は約 5 ﾘｯﾄﾙで1ﾘｯﾄﾙ失うとショック症状が出現する。そこで、まず最優先で止血をしてから心臓マッサージに入っていく。

止血する時の注意事項は、体内の限られた止血点を 30cm 程度の幅の布で縛って圧迫し、30 分毎に緩めたり縛ったりする。この時、ひもやネクタイ等で縛ると、圧迫が不十分なうえに血管や組織を損傷させるので使用しないこと。と講義して頂いた。

このような救命技能は講習のみにとどめ、勿論、実際に使用しない方が良い。しかし私は、この救命技能の資格を得て、今後どのように社会と係わって行くのかと、ふと考えた。

事故や災害、電車内や駅等で倒れている人がいたら、「逃げず・声をかけ・関

心を持って」まず、「大丈夫ですか」と声を掛けて、救命活動に入って行きたいと考えている。（常にマウスピースは鞄の中に携帯）最後に、倒れている人に意識があれば、何をして欲しいのかを聞いて対応してあげることが、「救命の最良の方法」だとも教えられた。

伊藤　浩之

参加報告-2

昨秋11月7日に、新宿消防署において救命技能認定講習会が開催された。

たしか、事務局から参加案内が来たのが9月中旬であったが、私は、直ちに参加申込を決めた。

私はどちらかというとやることが不器用なため、緊急の事態に遭遇しても咄嗟に行動することができないと強く自覚していた。そのため、機会があれば、緊急時対応に必要な知識・技能をできるだけ身につけておきたいと常日頃から思っていたからである。

当日の講習は、更新者は午前、新規の者は午後と2回に分けて行われた。

私の参加した新規の部は、キャンセルもあり参加者が11名と少なかったが、それが幸いしてか、結果として密度の濃い充実したものとなった。

当日の講習内容は、救急救命の仕方として、①心肺蘇生法と②止血法のやり方、それに③AED（自動体外式除細動器）の使用方法　についてであった。

①の心肺蘇生法については、大まかに言って、傷病者に対する外観観察→気道確保→人工呼吸→心臓マッサージという手順で行われる。そして、その間に協力者の確保や119番への通報依頼なども手際よく行う必要がある。

当日は、担当教官の指導のもと、上記の手順を確認しながらゴム人形を相手にして、一人一人丁寧に実地訓練が行われた。人工呼吸2秒に心臓マッサージ15回の組み合わせで、これを何回か繰り返した。

実際に行った印象としては、心臓の位置が、胸の中央にあるということが意外であったことと、人工呼吸で必要量の空気を漏らさず的確に送り込むことや持続的に心臓マーサッジを行うことは、案外難しく、それなりの肺活量・体力と技・慣れが必要と感じた。

②の止血法では、止血点の圧迫によっても応急的に血流を遮断することができることや、止血帯による止血は30分以内ということなどを新たに知った。

また、③のAEDは、昨年9月に閉幕した愛知地球博で、4人の命を救った最先端の救命装置で、現在、その設置場所が徐々に増えているものである。このAEDを使用した救命手当のやり方を、心肺蘇生法を組み合わせての一連の流れの中で体得した。

以上、3時間にわたる長時間の講習であったが、新宿消防署の担当教官の分かりやすい話と的確な指導方法もあって、あっという間に時間が過ぎた。

講習を終え、後日、東京消防庁消防総監名の「救命技能認定証」を戴いたが、まだ、スムーズに実践できるという自信はない。自分の胸に手を当てて触ってみると、ゴム人形と胸骨のある生身の人間とでは、だいぶ違うみたいだし、力を入

れてマーサッジをすると、胸骨がポキンと折れないかなと心配にもなる。

しかし、ともあれ、最低限必要な知識と技能は身につけた。日常的に、忘れないようにケアしていけば、きっと、火事場での馬鹿力を出す際に役立つと思う。防災ボランティアとして、ワンランク成長した気分にもなれた。未受講の人には、是非ともお勧めしたい。

終わりに当たって、素晴らしい講習を実施してくれた新宿消防署の皆さんと労を惜しまず企画・運営を行ってくれた協会役員の皆さんに、紙面を借りて心より感謝申し上げたい。　柳川　修

平成17年度初動対応訓練
第二建設事務所参加報告

11月18日、午前7時30分に大規模地震が発生したとの想定で行われた。第二建設事務所管内の訓練には、ボランティア協会から山口岩男、本郷紀一郎、渡辺安清、倭文佐一の4名が参加し、二建担当者の指導のもと実施された。

二建管内の被害想定箇所及び対応状況は以下のとおりである。

①鮫洲橋の落橋（品川区東大井一丁目13番付近）対応3名、

② 池上通りの道路陥没（品川区大井三丁目6番付近）対4名（うちボランティア1名

③ 補助26号線の建物火災による通行止め（品川区豊町2丁目2番付近）対応4名（ボランティア1名）。

各班は道路被害状況を調査し、その結果を本部に報告した。11時30分頃には所長の講評が行われ、その後解散した。

今回はパソコン使用での情報伝達訓練も含まれて、本部と事務所とのテレビ電話での情報交換がはじめて行われた。総合的にみて、情報連絡などについて、若干のもどかしさを感じたが、今後訓練を重ねることにより、適切な対応が行われることを期待したい。

二建班　本郷　紀一郎、倭文　佐一

第三建設事務所参加報告

日時　平成17年11月18日（金）
午前7時30～午前11時45分

参加ボランティア

飯山鉄之助、井出和夫、川口真人、雑賀徹、高本正彦、間室継三郎

（参加ボランティア）

活動内容

「震災時初動態勢の検証訓練」

7時 30 分、区部直下を震源とする大規模地震発生と想定し、自宅より事務所まで幹線道路経由で徒歩参集。7時52分事務所本部立上げ、8時45分全員参集完了。我々は「応急対策班」として被害状況把握、写真撮影し防災パソコンで局本部へ被害状況報告。

局長と米田所長とのテレビ会議に、雑賀徹、高本正彦が参加。

感想

事務所本部立上げから参集予定者全員が揃うまでの時間が早く、その後の

訓練もスムーズに行われてよかったと思う。

訓練終了後、米田所長を交えた話し合いの中でも出たのが、解散までの待ち時間（応急対策班のみ）に無線機の取り扱い練習などをするとよいと思う。

訓練終了後、全員での話し合いはよいことだと思う。

話し合いでの主な意見

・現場との連絡手段は携帯ではなく無線ではないか、訓練をすべき。

・緊急輸送路を全員に知らせる。

・防災パソコンは改善すべき点が多い。

・事務所本部の部屋を1つにまとめられないか。

三建班　井出　和夫

西多摩建建設事務所参加報告

建設局では、11 月 18 日午前 7 時 30 分に東京都区部直下を震源とする大規模地震（マグニチュード7、震度6弱以上）が発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づく、初動対応訓練が行われた。

西建では事務所と奥多摩出張所の2ヶ所で訓練を行った。 ボランティア会員からは小山弘光・小山幸也・池野鎮雄・佐藤肇・岸忠夫の5名が訓練に参加したのでその報告をする。

訓練は、フェーズⅠ・フェーズⅡの2段階で実施され、フェーズⅠの訓練は西建から4km以内に居住する職員が対象で、地震発生後直ちに事務所に参集し、①対策本部の立ち上げ②参集状況の報告訓練を行った。

（参加ボランティア）

西建では7時40分に対策本部が立ち上がり、8時43分に予定していた職員全員（ボランティア会員・事務局職員を含め49名）が参集を完了した。

フェーズⅡは、フェーズⅠ訓練終了後引き続き行われ、①応急対策班編成・出動②被害状況整理③被害状況の局本部への報告等の訓練を実施した。

我々ボランティア会員は、このフェーズⅡ訓練からの参加で、8時30分に事務所に参集し、各応急対策班に1名ずつ編入されボランティア協会のユニホームに身を固め被災現場へ出動した。

応急対策班は6班編成され、「歩道橋が倒壊した」「マンションが傾いた」「道路が陥没した」「橋台が崩壊した」など、徒歩で片道30分ほどの想定被災現場6ヵ所の被害状況を、チェックリスト表に記入したり、ポラロイドカメラで撮影したりして調査を行った。調査終了後事務所に帰り本部に報告し 11 時に訓練を終了した。

当日は、小春日和で風も無く絶好の訓練日和（？！）であった。対策本部の立ち上げも地震発生後 10 分と早く、また、訓練全体もスムースに進んだが、反

省点も多々あった。実際の地震は昼夜・天候を問わずいつ発生するか分らない。本番の時にはこの貴重な経験を十分生かし、職員と連携を図り適切に対処して行きたい。

西建班　　岸　忠夫

上野動物園参加報告

1．参加者

直江　章・後藤　旭・緑川　浩・堂下博・小森和雄　以上　5　名

2．訓練内容

4 キロ圏内の居住者はいないため参集訓練には参加者はゼロ。

・動物園の独自訓練としての施設点検訓練に参加。

・訓練参加のため、午前 9 時に、上野会議室に集合

・9時に訓練開始、開園中に、地震が発生し、飼育担当から動物舎に破損が生じたとの連絡が、事務所へもたらされたとの想定で始まった。

・破損個所は、東園では「白熊舎」・西園では「サイ・キリン・オカピ舎」

・参集した職員（5 名）と、動物園の工事課の職員と防災ボランティア（5　名）が、東園と西園班と、2班に分かれて点検に出発。

・破損個所の確認と、応急措置を実施との想定（当日は、応急措置の資材置き場を確認した）で、本部の会議室へ引き上げた。

・応急対策班長の工事課長に状況報告をし、訓練は終了した。（9 時 40 分頃）

・訓練参加のアンケートに記入後、訓練参加者は散会した。

・防災ボランティア協会員は、白熊の前で記念写真撮影し、散会。

3．訓練報告

小森は、訓練の様子を写真撮影したので、CD－Rに収め、上野動物園（庶務課）に届けた。（11 月 30 日）

上野動物園班　小森　和雄

平成17年度後期施設点検

第三建設事務所報告

第三建設事務所実施の車いす点検が 11 月 29 日（火）に行なわれた。三建の今回（秋）の道路点検は新宿区内の都道を対象として行なわれた。バリアフリー点検の実施区間は新目白通りの都電早稲田駅前（今話題のシノケンが建築主のマンション　スカイコート西早稲田の側）から六建との境まで。約 600 ㍍。

（参加ボランテイア会員と米田所長、関谷課長）

参加者は、建設防災ボランテイアからは、飯山さん、雑賀さん、加藤さん、高本さん、中田の5人、三建からは米田所

長をはじめ、関谷補修課長、有江管理課長ほか 15 人。車いすに交代で乗車体験しながら、また、傾斜計で勾配を測りながら約1時間をかけての点検でした。

点検実施区間の地形は東西に走る都道、直ぐ北側には道路と平行して神田川が流れている。南側は台地で、北向き斜面が新目白通り(神田川)にすりついている地形になっている。いわば道路は斜面と低地の変曲点に当たっている。まちを観察するとこの地域は過去に大水が出たのではないかと想像される。沿道の建物の地盤が高いことがそれを物語っている。建物地盤は高く、道路地盤は低くして、大水が出ても道路が水を受け持ち民地は浸水しないように計画したのでは無いだろうか？

ところが、現在の高田馬場地域は区立障害者福祉センター等障害者施設があり、車いす利用者も多く、歩道は出来るだけ水平に保ちたいという新しい必要条件が出てきた。車道は低く、民地は高く、3㍍幅の歩道は平らにしたい。3つの条件をまんぞくさせる回答は無さそうだ、どうしても横断歩道の取り付けが急勾配になることは避けられない。となれば、車道を嵩上げするしか方法はないのか。そのとき大水の対策はどうするのか？考えさせられた車いす点検でした。

三建班　中田勝司

北多摩北部建設事務所報告

小春日和の 11 月 25 日、6 人が二班に分かれ北北建の佐々木補佐、植園主任をリーダーに、道路施設とバリアフリーの点検を行いました。

参加者:武田、中山、名和、根本、花田、岩田

昭和記念公園南側沿いの 153 号線を、東橋交差点から公園昭島口前まで 3km の往復は、道路も広く・新しく、指摘事項は4点のみでした。

立川駅南口駅前通りの 149 号線、モノレール下道路を立日橋まで 2km の往復は、建設してから6年程の新しい・良く整備された道路ですが、9点も指摘事項が見られました。特記すべきは、インターロッキングブロックの表面クラック・剥離です。これはブロックの表層カラーモルタル部分が不良で、経年とともに劣化しクラックから剥離に至り、1cm 弱の凹みが各所に生じているものです。工事業者も不良を認め、設置替え工事の協議となります。

次に、視覚障害者誘導ブロック部分にちょうど制水弁室があり、4箇所で高さが 1cm 程凸・凹になっていました。

2年前の指摘箇所も確認し皆直っていましたが、一軒、酒屋の大型置き看板は相変わらずで、悪質と認められました。

（道路点検中のボランテイア会員）

所長室で所長に面会した後、帰途、駅ビル内で反省会を開き活動を再認識しました。毎回の点検で、良く見れば問題点が見つかり、道路点検の意義を実感しました。

北北建斑　岩田　一昭

多摩動物公園報告

平成17年11月25日金曜日に多摩

動物公園参集メンバー4名（湯本、方波見、伊藤（泰）、荒木の全員）により、園路を中心に施設点検を実施しました。

当日は晴天に恵まれ、13時30分正門前に集合し、園側で用意下さった園内図を持って、メインルートから外れたお客様の少ない園路を重点に点検をしました。

動物園は、家族連れや幼稚園児など幼い子供達が多いので、手摺、段差など日常の手入れの良さに感心しました。

その中で、メインルートから外れた場所で園路沿い斜面の崩落防止など数件の不良箇所が見つかりました。

特に、ユキヒョウ舎から丘陵地を通りメインゲートに戻る園路は、シルバーシャトル（園内巡回バス）の巡路になっているにも拘わらず人通りが極端に少なく、見捨てられた状況になっているのが気になりました。1.5 ㎞程のこの園路は途中にベンチ等もなく動物もいませんが、紅葉の情景が素晴らしく、しばし多摩丘陵を代表する紅葉を観賞しました。多摩動物公園のビュースポットとして是非売り出して欲しいと全員一致の意見でした。

16 時点検終了、事務所で木川補佐に点検の報告をし、お世話下さった防災担当の末菅さんにお礼を申し上げ園を後にしました。

動物公園駅前の蕎麦屋でささやかな反省会をし、解散しました。

多摩動物公園班　荒木　清

17年度の現場見学を開催

今年度の現場見学会は、11月30日（水）の午後、秋晴れもとで70名にのぼる参加を得て行われました。

これまで、秋川南岸道路・八王子有料道路(H12 年)、新交通事業の2路線（H13 年）、環7の地下調節池（H14年)、環8整備事業の練馬・板橋地区(H15年)、東京湾防災施設(H16年)、と回を重ねてまいりました。そこで今年度は、趣を変え、いわゆる面整備事業を取り上げることになりました。

都内各地で展開されている“まちづくり事業”の中から、かつての汐留操作場を中心とした31haに及ぶ広大な土地区画整理事業をベースに、快適な街づくりを目指して進められている「汐留シオサイト」と、関連する環状2号線事業を候補選定し、関係機関の快い説明・案内のお引き受けで、実施の運びとなりました。

当日は、都市整備局第二区画整理事務所、汐留地区街づくり協議会事務局、並びに建設局第一建設事務所、の各職員10数名で対応頂き、周到に準備された資料や映像により、手際よい説明と案内を受け、大変に有意義な視察会となりました。

ご協力頂いた各機関こ、改めて感謝を申し上げる次第です。

また、参加頂いた会員にはご協力を感謝し、都合で出席できなかった会員の方々に、開催の模様をお知らせします。

〔見学会開催次第等〕

1，開催日時：平成17年11月30日、水曜日、13：30～16：30

1，対象事業

①「汐留シオサイト」の街づくり（汐留地区区画整理事業他）

②環状2号線の整備事業（溜池～晴海地区）

1，事業説明

：第二区画整理事務所　地区事務所会議室で拝聴

※司会進行：第二区画整理事務所

藤井課長補佐
＊総括説明
:都市整備局
　那須井第二区画整理事務所長

:建設局
　　綿貫第一建設事務所長

＊事業説明 ： 汐留地区土地区画整理事業……二区・山本工事課長
「汐留シオサイト」の街づくりと施設管理…協議会・中込事務局長
環状2号線の整備事業… 一建・渡邉副所長
＊工事説明:環状2号線の関係工事の紹介(パワーポイント活用)
・汐留環2工事(建設局):鹿島・鉄建JV…保田所長
・JR 交差部環2工事(JR 東日本):鹿島・鉄建 JV…永田所長
・JR 交差部環2工事(JR 東海):鹿島・名工 JV…高瀬所長
・第一京浜交差部環2工事(交通局):
　大成・三井住友・白石 JV…岩本所長

1, 現地視察:二区・街協・一建の方々の案内で、3班に別れて視察
街区巡回⇒環2工事現場⇒防災監視室⇒ビル屋上からの視察

(浜離宮汐入池に浮かぶシオサイト)
※3班が視察順路を変えて一巡
1, 意見交換会:現地見学終了後、場近く会場での懇親会。

今回視察した事業地域は、JR新橋駅から浜松町駅にかけての臨海部に展開する新たな街で、途上とは言え各街区には10数棟の高層ビルがオープンしており、新橋駅寄りの日本テレビ周辺では活気と賑わいを見せていました。

街の特徴として感じたのは、最深部の地下鉄にはじまり、ビルの地下駐車場間を結ぶ専用の車路、その上層の地下歩行街路、地上街路、ビルを結ぶ歩行者用ペデ、そして高架で走る新交通と、立体的な移動空間や施設となっている点と、総合防災監視システムの充実などでした。

一方、月島・晴海・豊洲へと臨海部を結ぶ、環状2号線の重要な機能と、その整備に取り組むご苦労を見聞することができました。

当日は好天に恵まれたとは言え、現場視察の行程では冷たいビル風に震え、襟を立てる様相となりましたが、案内側、参加会員とも最後まで熱心に頑張って頂きました。

見学会に続く懇親会では、50名対象の会場が溢れんばかりの参加者を得まして、芯まで冷え切った身体に熱燗を入れ、これまた楽しく有意義な場になったのでは、と思います。

見学会担当役員　田中　稔・輿水　昭秀

現場見学報告-1

11 月 30 日(水)、汐留地区区画整理事業、汐留地区街づくり組織と地区内施設の管理、環状 2 号線事業を対象とした現場見学会が、第二区画、第一建設、汐留地区街づくり協議会、各工事請負者の協力のもと、約 70 名の参加により実施された。

これらは、大規模跡地を活用した新しい街づくり、民間活力を活用した公共施設の維持管理、都心部と臨海部の連絡と広域道路ネットワークの拡充など、近年、都民にも広く注目されている事業である。

汐留地区区画整理事業は平成 7 年に事業が開始され、今日まで、街づくり協議会と帯同して道路公園等の整備、JR 東側地区の高層ビル群の建設、JR 西側地区の特色あるチッタイタリア街の形成など、街づくりの完成が目前の状況であった。

また、大江戸線、ゆりかもめ等の交通結節点として、さらに、多数の街への来訪者への対応として、広幅員の地下歩道、ペデストリアンデッキ、地下車路等の施設管理を官民共同による新しい手法を取入れ、街づくり協議会が核となって適切に管理され、高品質で快適な公共空間が確保されていた。

これらの状況について説明を受け、現地を見て、まさしく、未来をひらく新・都市空間「汐留シオサイト」が生み出されていると実感した。

平成 7～9 年区画整理部在職時、汐留地区の大型建築物の移転補償のあり方、地下歩道の管理手法、事業費削減、街づくり協議会との対応などに頭を悩ませていたことを思いだし、現在の街の姿を見て感慨深いものがあった。

環状 2 号線は、虎ノ門～新橋間の地下本線の「土壌浄化＋開口部」方式から「換気塔＋ボックス構造」への変更、築地～晴海間の「地下式」から「地表式」への構造変更を検討中とのことであったが、第一京浜～汐留地区間は既に 4 件の工事(建設局 1 件、JR2 件、交通局 1 件)が施工中であった。

いずれの工事も、新幹線や東海道線等の鉄道直下、第一京浜や汐留地区内供用中の道路直下での、狭隘な施工空間での緻密な作業を要するもである。

当日は各請負者からパワーポイントで工事概要や進捗状況の説明を受けたところであるが、厳しい作業環境の中、熱意ある創意工夫のもとに施工されており、まさしく、都市土木技における技術の粋を結集した取組みであった。

今後、虎ノ門～第一京浜間の地下トンネルにおける地下鉄や共同溝等との近接施工、汐留～晴海間の首都高速下部との近接施工や隅田川架橋など高技術・高精度を要する数多くの場面に直面するものであろうが、我国の土木技術の進展をふまえれば問題なく対応できるものと考えている。

本事業に関しても第二区画当時、築地～晴海間のシールドトンネルの検討に携わったことから、電通ビル 46 階から環 2 ルートを遠望しつつ、マッカサー道路と言われ長い間休止状態にあった虎ノ門・新橋間、汐留地区内、さらに築地・豊洲間の早期完成を願い、現場見学会を終えた。

六建班　中嶋　和雄

現場見学報告―2

今年度の建設防災ボランティア協会現場見学が、11月30日（水）午後、会員約 70 人の参加で、第二区画整理事務所汐留地区事務所を拠点として実施された。最初に、沼

尻ボランティア協会会長から、この見学会に協力いただいた第二区画整理事務所、第一建設事務所、汐留街づくり協議会、その他関係者にお礼の挨拶があり、その後、二区の那須井所長、一建の綿貫所長、街づくり協議会事務局中込局長から挨拶を受けた。

概要説明については、二区山本工事課長から汐留区画整理事業について、一建渡邊副所長から環状二号線事業について、中込局長から街づくり組織と地区内施設管理について説明を受けた。また、汐留環二工事、JR 交差部環二工事、第一京浜交差部環二工事について、それぞれの施工会社から説明を受けた。

その後、多人数のため、三班に分かれて現場見学を行った。見学コースは、汐留地下歩行者道監視機器室→電通ビル→街区→環状二号線、という順序とし順次出発した。

最初に、地下歩道から監視機器室に入り、管理規模、管理体制、機器類等の説明を受けた。歩行者空間は、区街3号線と補助 313 号線の地下部分で、広く、複雑な形態をしている。人の流れの方向も一定でなく、監視用カメラやモニターの台数も多く、管理の苦労がうかがえた。同じようなシステムで管理している新宿地下歩道の監視室を思い出した。

ここを後にして電通ビルの46階に向かう。エレベーターの乗り心地はきわめてスムーズに到着。ここから築地方向を遠望する。すぐ下に浜離宮庭園、築他市場が見える。少し先に日をやると晴海通りの延伸部の新橋の桁架設を望めた。城東方面に向けても高層ビルが建つようになったものだと感じる。

再びエレベーターで地上に戻り、今度はペデストリアンデッキを歩き、街区の状況を見学する。確か最後に残っていたD北街区で遺跡の発掘調査をしていたころ見学したが、今は、ここのビルも完成し、昔の面影はない。こうして出来上がったビル郡を見ると、目いっぱい、土地の高度利用をしていると感じる。

最後に、補助313号線、環状二号線交差点のデッキ上から、環二の工事状況を見学する。第一京浜、JR 線を地下で横断する環二の工事が最盛期を迎えている。この工事は、JR 線部での在来線改修工事や環二の下にある地下鉄汐留連絡線等を配慮しながらの施工であり、特に、安全対策が強く求められているようだ。こうして大変有意義であった見学を4時半ごろに終え、夜の懇親会に移った。

ここでも二区画、一建の所長に参加いただき大いに盛り上がったところでした。二区画、一建の所長に改めてお礼を申し上げるとともに、今回の企画にご尽力されたボランティア協会の幹事の皆様にお礼を申し上、げます。

森田　幹男

がんばっていま～す！
「都立の動物園・水族館」

「『旭山動物園』を超えるパークが、大都市にある！水族館・動物園ランキング」（何故か、水族館が先になっていますが）　この大きな見出しに引かれ、日経トレンディ 7 月号を買い求めました。

全国の水族館・動物園を覆面調査した結果、総合で、水族館では、都立の葛西臨海水族園は第 4 位、動物園では、都立の多摩動物公園が堂々の第 1 位、恩賜上野動物園は第 4 位と出ていました。昨年あたりから、北海道旭川市の旭山動物園がマスコミの話題となり、天下の上野動物園を越えた等々報じられていましたので、多摩動物公園が 1 位と判ったときは、『都立の動物園はよく頑張っている』と、動物園の OB として嬉しくなりました。

この調査は、①世界観を味わう（約 10 項目・25 点）②動物＜魚＞を見る（約 40 項目・45 点）③一日中遊ぶ（約 25 項目・20 点）④食事を楽しむ（約 10 項目・10 点）と、100 点満点を 80 数項目に割り振って、カップルの場合とファミリーの場合とに分けて、極力客観的に点数化して比べるというもので、20 位まで細部の点数と共に、一覧表に整理され

ています。

上位を占めた他の水族館はショー（配分点は 8 点）を行っていますが、葛西臨海水族園は、ショーが 0 点にも係わらず 4 位と健闘しており、世界観や展示が高い評価を受けています。因みに、1 位「沖縄美ら海水族館」・2 位水族館「うみたまご」・3 位名古屋港水族館・5 位「横浜・八景島シーパラダイス」でした。

多摩動物公園は、ｶｯﾌﾟﾙとﾌｧﾐﾘｰ共に、1 位評価で、「動物の習性を利用し、近くで、活発な動物をみられる工夫をしているか」や「ｶﾞｲﾄﾞﾂｱｰや体験学習の内容は充実しているか」が高い評価を得ています。2 位は「よこはま動物園ｽﾞｰﾗｼｱ」で、ｶｯﾌﾟﾙ・ﾌｧﾐﾘｰ共に 2 位、3 位は「旭山動物園」で、ｶｯﾌﾟﾙ 3 位・ﾌｧﾐﾘｰ 6 位で、展示の工夫が高い評価を受けています。4 位の上野動物園は、ｶｯﾌﾟﾙ 4 位・ﾌｧﾐﾘｰ 3 位でした。また 5 位は「東武動物公園」でした。

多摩動物公園のオランウータンが空中散歩する「スカイウォーク」は、その規模の大きさや、誰（どのｵﾗﾝｳｰﾀﾝ）が最初に渡るか、お婆さんオランウータンの為に補助ロープを加えた、また、渡ったものの何日間も寝小屋へ帰らなかった等々マスコミを賑わしていますので、ご存知の方も多いことと思います。

また、建設防災ボランティアニュース第 12 号（平成 16 年 7 月 21 日）で、「動物園サポーター制度」が始まり、私もサポーター登録した旨の報告をしましたが、このサポーター資金を活用して、上野動物園では「カワウソの泳ぐ姿やエサを取る様子を間近で見られるアクリルの水槽の設置」や「いそっぷ橋の上からそばにあるケヤキの木に登るヤマアラシを目線の高さで、自然界にいるように見せる工夫」などをし、マスコミの話題を集めています。

都立の動物園や水族館では、私の在職当時から色々と集客の工夫をしてきましたが、旭川市の「旭山動物園」の工夫や来園者数についてのマスコミ報道に刺激されてか、最近は益々創意工夫を重ねているように思います。

これらの結果が、多摩動物公園を堂々1 位にすると同時に、葛西も上野も 5 位以内という評価を得たのではないかと思います。都立の水族園・動物園を訪ね日々変わりゆく姿を実感してみて下さい。

なお、今回紹介しませんでしたが、都立の動物園・水族館としては、吉祥寺駅前にある「井の頭自然文化園（日本ﾘｽの放し飼いゲージ・オシドリ等）・付属の『水生物館（淡水魚）』」、更に、伊豆大島の「大島公園（ﾜｵｷﾂﾈｻﾞﾙとﾊﾞｰﾊﾞﾘｰｼｰﾌﾟの大放飼場）」があります。こちらも、ぜひ訪ねてみて下さい。

上野動物園班　小森　和雄

※ 編集後記

今号は、救急救命講習会、参集訓練、施設点検、現場見学を中心に編集しました。

発行人：沼尻　孰
発　行：東京都建設防災ボランティア協会
所在地：東京都新宿区西新宿 2－3－1
財団法人　東京都道路整備保全公社内

編　　集：小山　幸也、加藤　基雄